



# 浜家連 ニュース 4月号

第187号

平成28(2016)年4月1日発行

○発行人 特定非営利活動法人 横浜市精神障害者家族連合会  
事務局 〒222-0035 横浜市港北区鳥山町1752番地  
障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール3階  
電話 045(548)4816 FAX045(548)4836

## 巻頭言 「自立は、依存先を増やすこと」を考える 副理事長 柏木 彰

先月都筑区公会堂でAブロック市民精神保健福祉フォーラムが大勢の参加者を迎えて開かれた。講師はおなじみの夏苺郁子先生だった。言うまでもなく統合失調症の母親を持ち、ご自身も2度の自殺未遂と7年間の精神科通院を体験された精神科医の話は一つ一つ私たち家族の心に染み入るものだった。

中でも終盤で触れられた熊谷晋一郎さんの言葉「自立は依存先を増やすこと」を聞いて私は目から鱗が落ちる思いがした。

家に帰ってきてから熊谷氏のことをもう少し詳しく知りたいと思いインターネットで検索してみた。

熊谷さんは新生児仮死の後遺症のために脳性まひに、爾後、車いす生活を余儀なくされている。小中高と普通学校で統合教育を受け、東京大学医学部を卒業、病院勤務等を経て、現在は東京大学先端科学技術研究センター特任講師をされている。

物心つく前から厳しいリハビリをうけ、リハビリがうまくいかないのは本人の努力が足りないからだとか親やトレーナーに一挙手一投足を監視され、一日も早く健常な動きができるようにとリハビリ中心の毎日だった。

高校を卒業し東京の大学へ進学するのをきっかけに親の猛反対を押し切って独り暮らしにチャレンジ。最初はなにも手を加えていないトイレで、介助してくれる人もいなくて、失禁してしまうこともあったが一人暮らしの体験は生まれて初めて親の介在なしに世界と直接交渉ができたという喜び、わくわく感でいっ

ぱいだった。

厳しいリハビリの試練を経験し、試行錯誤をしながら自立生活を確立した熊谷氏は「“自立”とはどういうことか」次のように語っている。

一般的に「自立」の反対語は「依存」だと勘違いされているが人間は物であったり人であったり、様々なものに依存しないと生きていけない。

“障害者”というのは、「依存先が限られてしまっている人たち」のことである。

健常者は何にも頼らずに自立していて、障害者はいろいろなものに頼らないと生きていけない人だと勘違いされている。けれども真実は逆で、健常者はさまざまなものに依存できていて、障害者は限られたものしか依存できていない。依存先を増やして、一つひとつへの依存度を浅くすると、何にも依存していないかのような錯覚になる。健常者というのはまさにそういうことなのだ。

実は膨大なものに依存しているのに、「私は何にも依存していない」と感じられる状態こそが、“自立”といわれる状態なのだろうと思う。だから、自立を目指すなら、むしろ依存先を増やさなければならない。障害者の多くは親か施設しか頼るものがなく、依存先が集中している状態です。だから、障害者の自立生活運動は「依存先を親や施設以外に広げる運動」だと言い換えることができる。

このような熊谷氏の“自立”と“依存”についての考え方は“自立”はプラス、“依存”はマイナスと単純に考えがちな私たちには目から鱗であり、この視点



から障害者の親の在り方や障害者自立支援の考え方 についてもう一度考え直してみたい。

(TOKYO 人権 第 56 号 H27/11/27 掲載の熊谷氏インタビュー記事を参考にしました。)

## 浜家連の動き ……来年度に向けて……

\*\*\*\*\* 「お困り度」アンケートがまとまりました。\*\*\*\*\*

当事者の主な生活状況	回答数	率(%)	
		対回答者数	対回答数
1 入院している	30	9.2	7.9
2 家族と一緒にまたは一人暮らしで、医療に結びついていない	24	7.4	6.3
3 通院はしているがほとんど家にいて社会と結びついていない	106	32.5	28.0
4 区役所の生活教室やデイケア、生活支援センター(作業所) 地域活動支援センターに行っている。	87	26.7	23.0
5 就労継続B型の福祉サービス事業所に通所している	15	4.6	4.0
6 福祉的就労(就労継続A型事業所、就労移行支援事業所、職場実習協力事業所など)を利用している	29	8.9	7.7
7 一般就労している(特例子会社も含む)	35	10.7	9.2
8 回答なし	53	16.3	14.0
合計	379	116.3	100.0

平成29年度要求書作成の基礎とするため、皆様に「お困り度」アンケートをお願いしていましたが、その結果がまとまりました。回答は326名の方からいただきました。

「通院はしているが社会と結びついていない」が32.5%、「区役所の生活教室やデイケア、地域生活支援センターに行っている」が26.7%と多くなっています。

また「一般就労している」も10.7%ありました。また「お困りごと」では、引きこもり対策が見つからない、障害年金や自立支援医療の更新時の医師診断書費用が高いなどが多く回答されていました。

詳細は理事さんが資料をお持ちなのでお聞き下さい。

## \*\*\*\*\* 平成28年度年間啓発事業が決まりました\*\*\*\*\*

(浜家連研修会・メンタルヘルス講座・浜家連研修会)

### ☆浜家連研修☆

会場：ラポール2階 大会議室 13:30~16:00

日付(曜日)	行事名(内容・テーマ)	講師
28. 6. 23(木)	第1回 傾聴を支えるもの	石丸 昌彦
28. 7. 22(金)	第2回 メタボ脱出作戦	都甲 崇
28. 9. 16(金)	第3回 発達障害とは	浮貝 明典
28. 10. 21(金)	第4回 WRAPを体験しましょう	松井 洋子
28. 11. 25(金)	第5回 家族支援について	岡田 久美子

赤字の家族学習会は事前予約が必要となります。



### ☆第22回メンタルヘルス講座☆

会場：横浜市健康福祉総合センター13:00~16

定員：300名

日付(曜日)	行事名(内容・テーマ)	講師
28. 10. 15(土)	1日目 思春期のメンタルヘルス	渡辺 久子
28. 10. 29(土)	2日目 60才からのメンタルヘルス	岩成 秀夫

メンタルヘルス講座は1日目、2日目ともに事前予約が必要となります。

### ☆ブロックフォーラム☆

日付(曜日)	行事名	内容・講師	会場・時間
28. 9. 24(土)	Bブロックフォーラム (担当 あげぼの会)	風間美代子 精神障害者の自立支援活動	旭区公会堂
28. 12. 16(金)	Dブロックフォーラム (担当 さかえ会)	内山繁樹 IMRとは	栄公会堂 13:00~16:30
29. 2. 25(土)	Cブロックフォーラム (担当 みなみ会)	①和太鼓 ②糸川昌成 脳の不思議	会場 南区公会堂 13:00~16:00

赤字のフォーラムは事前予約が必要となります。

## Aブロックフォーラム奮戦記



すずらん会 工藤智子

昨年4月初め、副会長鈴木氏が、夏苺郁子先生に講演を依頼、快諾。3月5日(土)、この日を目指して、私にとって雲をつかむような戦いが始まった。

5月、都筑公会堂の予約をするため区役所に行き、その手続きに何が必要なのか調べてもらい、書類を作成。提出。

9月初旬、夏苺先生の講演の前に、前座として、一昨年、都筑区精神連絡会で楽しいパフォーマンスを繰り広げた「シャロームの家」(磯子区の作業所)に出てもらおうという話になる。実は、その年の2月にすずらん会へも来てもらい、5人くらいから話を聞いて、とても楽しくて予定を大幅に延長してしまった。10月シャロームへ正式依頼、快諾。昨年5月浜家連総会の余興にも出演したので、先方はやる気満々。

10月26日Aブロック会議第1回。具体的な活動に入る。区役所から2名、生活支援センター2名、あおぼ会、白梅会、みどり会から各1名、すずらん会3名、基本的にこの10名を中心スタッフとして活動開始。全体の流れを説明すると、区役所係長の大森氏から、区内の自治会町内会に全部回覧したら、と思いついた提言。そんなことできるんだ、とただ

びっくり。その上民生委員、保健活動推進員、中学校長会に配ることも可能、との説明。

11月のすずらん会役員会で検討し、すっかりそのまま実行してもらうことに決定。区役所がチラシ回覧などの件は全部やってくれるとのこと、すずらん会の面々は大いに力づけられた。後から地下鉄の都筑区8駅へのチラシ配置も、という連絡があり、それも実施依頼。

12月に都筑区のメンバーだけで、都筑公会堂を下見。設備、会場内の座席、舞台の広さなどを確認。このころ私が出ている都筑区障害福祉分科会で、聴覚障害の方から、「手話通訳はないの」と聞かれ、慌てて「検討します」と答えた。すぐに会で検討、やることになる。鈴木氏がラ・ポールに手話通訳の事務所があることを教えてくれ、資料をもらってくれたので早速申し込む。

1月18日、2回目のブロック会議。「障害者案内」という係を作ることを私から提言。受付と会場内に各2名ずつ、その担当者を配置することにした。あまり自信はなかったが、精神以外の障害者にも来てほしかった。聴覚障害者から教わった案内の仕方を説明。

2月3日、公会堂との打ち合わせ後、3回目のブロック会議。前回配布のローテーションを一部修正して配布。当日までの準備、舞台上の進行について、受付業務、会場の準備、道路案内について確認。

このころ、都筑区内県立高校3校をすずらん会だけで訪問。1校はチラシのみ事務室へ渡し生徒さんへの宣伝依頼。ほかの2校は応接室へ招かれ、家族会の活動内容、フォーラムの内容についても説明できた。〈数日前に副校長先生などに訪問の依頼、電話をした。〉こんなことは初体験ですが、快く対応してくれたので、うれしかった。4名の来賓様へも出席依頼状を作成、送付した。

#### 《副会長鈴木氏の奮闘》

夏莉先生との交渉、シャロームさんとの交渉は主に鈴木氏に一任。が、1月末に奥さんの病状が悪化。2月中旬危篤状態となり、理事会は私が代理出席。2月15日、奥さん病死。2月18日葬儀。この日

すずらん会は定例会で、会員に報告。1分間の黙とう。が、この大惨事にもめげず、ひやひやする私たちをしり目に、鈴木氏はさらなる奮闘に向かった。シャロームに何回も通って「出演者を激励」と私たちは思っていた。が、結果を見れば、「飛び入り出演」の練習のためだった。

ふたを開けた、3月5日、皆さんご存知の通りです。だまされた！やられた！！

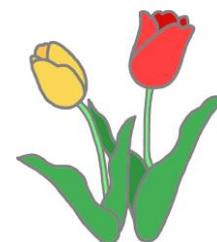
もう一人の田野井副会長は、舞台の段取り、機器の配置、受付、会場などの準備、道路案内の看板製作、チラシの配送、と面倒な雑事をたくさんやってくれ、東奔西走の毎日だったでしょう。

もちろん、ほかの会員さん、浜家連の諸先輩方、事務局の皆様にもたくさん助けいただきました。本当にありがとうございます。言うまでもなく、シャロームさま一同、夏莉先生の頑張りにも感謝しております。

### \*\*\*\*\* 平成27年度浜家連会員障害者年金受給件数 \*\*\*\*\* (平成27年4月～平成28年3月)

#### 【受給件数表】

内 容	件数	率 (%)
受給件数	43	100
内受給決定件数	39	90.6
内受給却下件数	4	9.4



皆様のおかげで、以上の実績を挙げる事ができました。

今年より障害年金の新規・更新の審査基準が厳しくなりましたので、その対策について各単会で話をさせて頂いております（質疑応答を含めて1時間～1時間半）。現在のところ、あけぼの会（旭区）、いずみ会（泉区）、みなみ会（南区）が実施済で、

今後はたちばな会（保土ヶ谷区）、のぞみ（鶴見区）が実施予定です。他の単会でもご希望があれば可能な限りお伺い致しますので、ご連絡をお願いします。

皆様の障害年金が受け取れなくなると大変ですので、早目に対応策をご検討下さい。

浜家連顧問 社会労務士  
小山 志郎

#### ・・・編集後記・・・

袴姿のお嬢さんを見かけました。卒業、入学、入社、転勤……。出会いと別れが交錯する時節です。桜の花があざやかに咲き誇る季節でもあります。夜桜見物とばかりに、花冷えの中で酒を酌み交わしているうちに風邪、などとならぬようにくれぐれもご注意ください。